

## 2008年度「情報検索能力試験」に合格して（その2）

2008年度に実施された「情報検索能力試験」に合格された方の感想文をいただきましたので、ご紹介いたします。

### ◆ 1級合格者



山下 義昭  
持田製菓（株）  
知的財産部

幸いなことに最初の挑戦で1級に合格することができました。今年度から一次試験の論文試験が重視されることとなり、より実務的な試験になったことが私にとっては幸運だったように思います。情報検索に携わり、1級を目指す方の参考になれば幸いと思い、以下に私の試験対策を簡単に紹介させていただきます。

私が情報検索に携わったのは、94年頃、現在の知財部に異動し、特許の出願明細書を作成する際の先行技術調査でした。最近インターネットの普及もあり、情報検索もかなりエンドユーザ一色が濃くなっているように思われますが、情報検索の基本を痛感させられる場面にはしばしば遭遇するようになってきました。そこで今一度自分のやってきたことを振り返るとともに、自分の力を試してみたいと思い、試験にチャレンジすることにしました。07年に2級を突破し、続けて08年に1級を受験するつもりで、少しずつ準備を始めました。

11月の一次試験の論文試験と筆記試験は、より実務に即した問題が出されます。この試験に臨むにあたって、論文試験では、過去問を参考にして、普段の情報検索経験の中から、「情報検索に対する考え方」が問われる点に留意し、事例を考えていくことを心がけました。また、記述問題は自らの専門分野とよく使用するデータベースに関して知識を深めていきました。

一次試験では、論文試験が前半、筆記試験が後半と順番が今年から入れ替わり、筆記試験のようすで分野を選ぶことができないので、より実力が試されるように変更になっている点も重要な点と思われまます。よく考えて準備されると良いと思います。

二次試験の面接は、一次試験の論文内容を6分間のプレゼンテーションにまとめ、その発表を基に進められます。従って、論文作成の準備段階からプレゼンテーションを意識し、論点を絞って、知識というよりは「情報検索に対する考え方」を中心に構成することを私はお勧めします。

面接では、プレゼンテーションの内容、業務内容、一次試験の問題に関する事など、様々な質問を受けました。また、情報のプロとしての役割やあり方、今後の抱負などについても普段考えていることについて整理しておいたこ

とが役にたったように思いました。

今後、企業戦略を支える情報と提案を各部門に提供できる『インフォプロ』として、より一層のステップアップを図っていきたいと考えています。皆さんも多めにチャレンジすることを願っております。

### ◆ 2級合格者



森谷奈保子  
元鶴見大学文学部  
ドキュメンテーション学科

昨年度は情報検索基礎能力試験と情報検索応用能力試験2級を同時に受験し、基礎能力試験には合格したものの、応用能力試験2級は不合格でした。その悔しさをバネに今年度再挑戦した結果、合格通知を受け取った時は本当に嬉しかったです。

昨年度の試験時は勉強不足が身にしみたので、今回はみっちり勉強しようと決意して、試験の約8カ月前から勉強を始めました。特に、商用データベースの種類や検索方法の勉強には力を入れました。実際に仕事でデータベースを使用している方達に比べ、大学生の私には実務経験を積む機会はありません。大学で使用できる商用データベースも幾つかありましたが、STNなどの試験に出題されやすいメジャーなデータベースは導入されていなかったのも、特に不安な分野だったというのも一つの大きな理由です。そのため、テキストやインターネット上にあるデータベース利用説明書などを活用して、過去問を解いていき、少しでも検索の雰囲気をつかめるように努力しました。また、同じく受験する学友たちと行っていた勉強会でも、お互いに検索内容を提示しあって、検索式を検討したもの、よい勉強になったと思います。

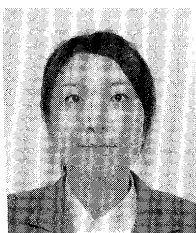
しかし、昨年度の試験時もそうでしたが、理解していると思っていたことが、少し違った表現で出題されると途端にわからなくなってしまうという、「理解した『つもり』になっているのではないか？」という不安は常にありました。そんな時、夏にINFOSTA主催の「サーチャー講座21」に参加したことで、その不安を和らげることができました。講義の内容は、基本がしっかり理解できる流れになっていたのも、自学習では理解できていなかった部分や見落とししていた部分に改めて気づくことができ、とても良かったです。また、膨大な試験範囲の中で、抑えるべきポイントを教えていただけたのは、受講後の勉強で時間を有効に使

えたので、大きな強みになりました。

大学4年生ということもあり、就職活動や卒業論文などで思うように勉強が進まない時もあったのですが、そんな時は学友との勉強会や「サーチャー講座21」の時のことを思い出して頑張りました。「自分だけでなく、皆頑張っている」と思うことで、またやる気が湧いてきて、しっかり勉強に取り組むことができました。

幸いにも、共に勉強していた学友も合格し、喜びを分かち合うことができました。同じように頑張って受験をする同志がいるということは、大変な勉強を乗り越えていくための一つの力になると私は思いました。

#### ◆ 基礎合格者



萩田 萌  
宮城学院女子大学

今回、私が、原稿を書くことになりました経緯として、情報科学技術協会が主催した合格者セミナーに参加した際、事務局長より、『合格者の声』原稿執筆のお願いのお話を直接いただきましたので、多少戸惑いましたが、お引き受けさせていただきました。

今回、情報検索基礎能力試験を受験した目的は、図書館司書資格と関連した資格であるためです。

今後、受験を考えている方へ、私から提案できることは、出題傾向をみると、試験内容は、データベースや情報の検索や、論理演算の検索式に関する知識を問う問題であったり、情報の歴史やソフトウェア、情報活用の基礎的な部分が全般的に出題されるので、まず、私も参加させていただきかかったのですが、試験対策セミナーなどに行ってみたり、インターネットでIT用語を理解することがよいと思います。

8割以上点数を取れば、合格ラインということでしたので、きちんと普段から書籍を読み基礎知識を身につけることが大事だと思います。

自分として、試験を受けるためおこなった対策は、最初に、「情報検索の基礎知識」を一読し、そのあと、母校の過去問研究会に何回か参加させていただき、後輩にも、頻出項目などを聞き、自分で整理しながら、過去問を解き、準備しました。母校で受験できることを知ったことや、受験申込から試験日まで日数が少なかったことなどから、多少不安になりました。

試験を受けることで、実社会で役立つことは、効率よく大量のデータベースの中から、データマイニングできるということです。

図書館司書の関連資格として、今回受験しましたが、今回の資格に固執するのではなく、実社会での様々な場面の応用として、教育学的な手法を持ち、良い方向に得た知識を活用したいと考えております。よって、今後は、情報分野においては、現在より、さらなる知識の向上を目指し、示唆に富んだ物事の見方をしていきたいです。